

「幕間」

作・ひきだ愛音

暗。

(音響) 「大劇場の拍手喝采」。

(音響) 「拍手喝采」はいつのまにか「豪雨」の音にすり替わる。

やがて遮るように、「ドアを閉める音」。

と同時に、舞台上手に立つ女の影。

(照明) 女を頭上から照らす。

シヨートカットの女。トレンチコートを着込み、肩掛けカバンの紐を握りしめている。

女の髪から水がしたたり落ちているのが見える。

女1・・・。

女1、舞台中央へ。

女の部屋の中。

部屋は殺風景で、決して広いとはいえない。むしろ、『広めのクローゼット』のような印象。小劇場の楽屋のようにも見える。

部屋の正面側、壁に張り付くように、扉を閉ざした大きな三面鏡が、この部屋の主と言わんばかりに静かに佇んでいる。

(この三面鏡の存在が、部屋を小さく見せているのかもしれない。) 三面鏡の前には、背もたれのない小さな椅子がある。

女1、鏡の前に立つ。

女1…ただいま。…助けて、お母様。

女1、三面鏡に手を触れず、扉を開けるしぐさ。

すると三面鏡の後ろから、白い手が左右に二本。にゅっと伸びてきて、

三面鏡の扉を開ける。

白い手に続いて、ペチコートを着た女の姿が二つ、三面鏡から左右に飛び出してくる。

女2 & 3 …お疲れ様、妹！

飛び出してきた女2と3は、見ると女1と同じ髪型をしている。

続